令和４年度　標準的学力調査の結果

学校支援課

令和５年１月に実施した標準的学力調査（東京書籍版ＣＲＴ）の結果をお知らせします。

１　各教科の平均正答率（％）及び標準スコアについて

※標準スコア…全国の平均正答率を５０としたときに新潟市平均正答率がいくつにあたるかを換算した値

【中学校２年生・理科】

年度	平均正答率			標準スコア
	新潟市	全国	全国との差	
令和　４　年度	**４９．０**	**５１．３**	**－２．３**	**４８．９**
令和　３　年度	６１．２	６０．６	＋０．６	５０．３
令和　２　年度	５８．９	５８．１	＋０．８	５０．４

【中学校２年生・英語】

年度	平均正答率			標準スコア
	新潟市	全国	全国との差	
令和　４　年度	**５３．８**	**５４．２**	**－０．４**	**４９．８**
令和　３　年度	４８．２	４６．９	＋１．３	５０．６
令和　２　年度	５６．８	５４．３	＋２．５	５１．１

２　中学校２年生・理科の概要について

全国平均との差はマイナスに転じたが、標準スコアをみると全国平均と同程度の結果である。問題全体に対して望まれる正答率（＝目標値）を越えた生徒の割合は５５．５であった。

問題の類別にみると、「基礎問題」「活用問題」ともに全国平均をやや下回った。

資質・能力や領域でみると、「知識・技能」の観点は、全国平均を３．０ポイント下回った。また、「粒子」領域では、４．３ポイント下回った。「エネルギー」領域

と「生命」領域は、１８問中１４問で全国平均と同等、または上回った。

３　中学校２年生・英語の概要について

全国との差はマイナスに転じたものの、標準スコアから全国平均と同程度の結果であるといえ、「基礎問題」「活用問題」ともに全国とほぼ同程度の平均正答率であった。

領域でみると、「書くこと」領域は、全国平均を０．９ポイント下回った。大問３つのうち、「思考・判断・表現」を観点とする設問では、複数で無解答率や誤答率が４０％を超えた。一方で、「知識・技能」を観点とする「基礎問題」では４問中すべてで全国平均と同等、または上回った。

また、「聞くこと」領域と「読むこと」領域では、２３問中２１問で全国平均と同等、または上回った。中でも、「聞くこと」領域では、９問中４問で全国平均を上回った。

３　今後の対応について

理科、英語それぞれの結果から、現在の授業改革の取組は一定の成果をあげているといえる。今後、すべての領域や内容で学力向上を図るために、指導と評価の一体化および問題解決的な授業の充実を推進していく。

また、今回の結果を基に各中学校において成果と課題の分析を進めること、および、下の視点から授業改革を図ることを促す。

【理科】

〇指導の個別化によって知識・技能の定着を図る。

〇生徒が既習の知識・技能を基に、見通しをもって課題や仮説、実験・観察計画を立て、結果を基に結論を導き出す過程を充実させる。

【英語】

〇同じ場面の中で、多様な言い方に触れたり、言い方を考えたりする場を設定する。

****

この調査結果をもとに、授業改革の方向性を各学校に「学校支援課だより Support　No.７」として示しました。以下の URL や QR コードからご覧になれます。ご参照ください。

https://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/gakko_keikaku/support.html